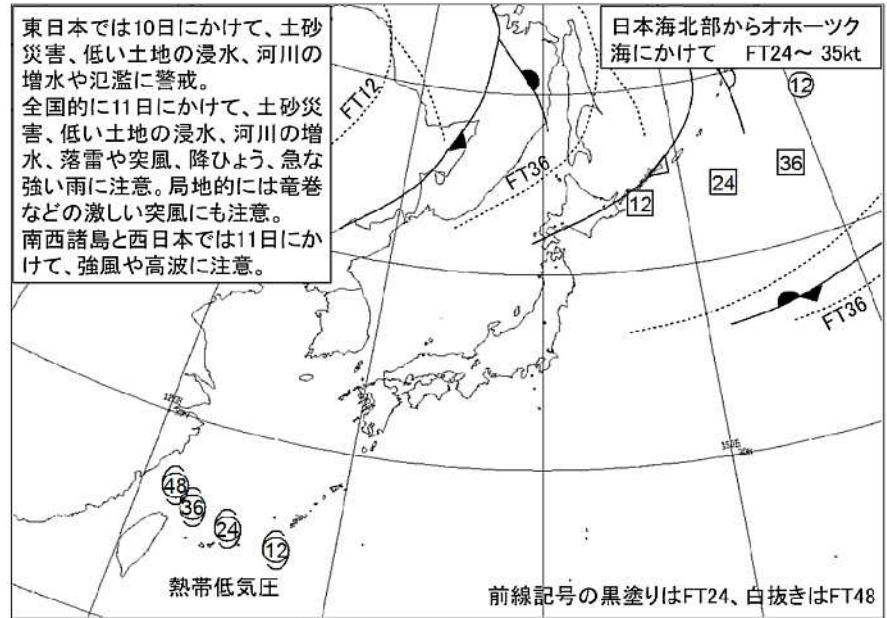


1. 実況上の着目点

- ① 本州には太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入している。上空寒気と日射による昇温の影響が加わり、大気の状態が不安定となっており、東日本では雷を検知し局地的に激しい雨を解析。
- ② 日本の南には熱帯低気圧があつて、ゆっくり西進。南西諸島や西日本では、熱帯低気圧周辺の下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっており、雷を検知し、強い雨や激しい雨を解析。
- ③ 500hPa-15℃以下の寒気を伴うトラフに対応する、前線を伴う低気圧がシベリアにあつて東北東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の下層暖湿気の流入は11日にかけて続き、上空寒気及び日射による昇温の影響も加わり、大気の状態が非常に不安定となり、東日本と東北地方では、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東日本では10日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。東北地方では10日にかけて、東日本では11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ② 1項②の熱帯低気圧は西北西進し、10日は東シナ海へ進む。南西諸島や西日本では、周辺の下層暖湿気の流入で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所があり、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。11日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風や高波、落雷や突風に注意。局地的には、竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③の低気圧は11日にはオホーツク海に進み、低気圧からのびる寒冷前線が北海道地方を通過する。前線に向かって850hPa θ e336K以上の下層暖湿気が流入し、上空寒気の影響も加わるため、大気の状態が不安定となり雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。北海道地方では10～11日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ④ 西～東日本、東北地方では11日にかけて、日本海から日本の東に中心を移す高気圧に覆われ、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症に注意(熱中症警戒アラートを参照)。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(18時からの24時間)：東海150、九州南部120、四国・奄美100mm。
- ②波浪(明日まで)：九州南部・奄美・沖縄3m。
- ③高潮(明日まで)：東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。